



TITLE:

稀少種ハナツノハギ(カワハギ科)が  
和歌山県白浜町の海岸へ再び漂着

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 稀少種ハナツノハギ(カワハギ科)が和歌山県白浜町の海岸  
へ再び漂着. 漂着物学会誌 2016, 14: 48-48

ISSUE DATE:

2016-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217877>

RIGHT:

© 2016 漂着物学会

久保田 信<sup>1</sup>：稀少種ハナツノハギ（カワハギ科）が和歌山県白浜町の海岸へ再び漂着  
Shin KUBOTA<sup>1</sup> : A rare filefish *Pseudalutarius nasicornis* (Monacanthidae) stranded again at a coast of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

ハナツノハギ *Pseudalutarius nasicornis* (Temminck & Schlegel, 1850) は他のカワハギ類と異なり、第1背鰭棘が目より前方に位置し、体側に口から目を通り尾鰭まで直走する1本の黄褐色の縦縞を有する特徴があり、神奈川県以南からインド・西太平洋沿岸域の水深15m前後の内湾の藻場周辺や水深40-100mの砂地に生息する(松浦 1985; 益田・小林 1999; 林・荻原 2013)。しかし、本種の和歌山県白浜町周辺海域からの記録はごく少数で、稀少種である(紀伊民報 2011; 久保田・中坊 2011; 池田・中坊 2015)。今回、再び本種が和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着したので記録する。

ハナツノハギの1個体が2016年2月23日に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の波打ち際に死亡硬直状態で漂着していた(図1)。全長10.5cmのこの個体にはいっさい腐臭はなく、新鮮であった。本種の全長は16cmに達するが(松浦 1985)、本個体の計測値からは成魚になっていると判断される。本種の幼魚は流れ藻につくので(松浦 1985)、南方から海流に乗って和歌山県田辺湾付近に来遊したが、前回に漂着した全長11cmの成魚と同様に、何らかの理由で成長したものの今回も死亡したものと推察される。前回の死亡漂着は1月で、今回は2月に起きたが、これらに時期は白浜では水温が一年で最も低下する時期なので、凍死したのかもしれない。



図1 和歌山県白浜町の海岸へ2016年2月23日に漂着したハナツノハギ *Pseudalutarius nasicornis*。

# 引用文献

- 池田博美・中坊徹次. 2015. ハナツノハギ In 南日本太平洋沿岸の魚類. pp.243, 528, 東海大学出版会, 東京.  
林 公義・荻原清司. 2013. カワハギ科. p.2236 In 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.  
紀伊民報. 2011. 珍しい南方ハギ漂着 白浜町臨海の海岸. 2011年1月16日第20490号.  
久保田 信・中坊徹次. 2011. 稀少種ハナツノハギ *Pseudalutarius nasicornis* (カワハギ科) 成魚の和歌山県白浜町の海岸への漂着. 南紀生物, 53 (1): 58.  
益田 一・小林安雅. 1999. 日本産魚類生態大図鑑. 第1版第4刷. 東海大学出版会, 東京.  
松浦啓一. 1985. ハナツノハギ p.347 In 日本産魚類大鑑. 初版第2刷. 465pp. 東海大学出版会, 東京.

(Received Mar. 12, 2016; accepted May 10, 2016)

<sup>1</sup> 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

<sup>1</sup> Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan